

# 発刊のごあいさつ

豊田市矢作川研究所 所長  
水谷 清

皆様には、日頃より豊田市矢作川研究所に対し多大なご支援、ご指導、ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。このたび研究所の1年の研究成果を「矢作川研究NO.11」として発刊の運びになりました。ご意見並びにご指導等いただければ幸いです。

豊かな水量ときれいな水を我々にもたらしてくれる矢作川は、古来より流域住民の生活と文化を支えてきました。平成の大合併により市域がその上流域まで広がった豊田市にとっては、今まで以上に矢作川との関わりは大切であり、そして何よりもかけがえのない矢作川を健全な川に取り戻すことが急務と思われれます。

研究所の設立の理念である「矢作川の豊かできれいな水と自然の回復」のため、基礎的で地道な研究をこの10年余り、じっくりと着実に進めてまいりました。天然アユ調査会に支えられながら、矢作川のアユの長期的な生態観察がその1つであります。昨年の5月に天然アユ調査会の10周年を記念し「ここまでわかった矢作川の天然アユ」と題し、シンポジウムを開き、今までの調査・研究で明らかとなったことを整理し発表しております。この中で、10月生まれの早生まれの「一番仔」が消えていえることが報告され、その原因の1つに矢作川河口のヘドロの影響が考えられるとの見解も述べられました。まだ結論には至っていませんが、この点にスポットを当てて調査・解明が必要で、まだまだ先は長いようです。

川の様相も日々変化をしているようです。カワシオグサの大量発生も影響を及ぼし、川を健康を脅かしており、平成6年の研究所の設立以来調査に取り組んでまいりました。カワシオグサの生態特性や生活史の解明、併せて培養技術の確立により成長要因をコントロールし成長の環境特性の把握に挑んでいるところであります。それが特定できれば、次のステップが踏めると確信しています。また、最近では特定外来生物に指定（平成18年2月）されたカワヒバリガイが3年前から矢作川で異常発生し人々を驚愕させています。発生とともに、カワヒバリガイの生態調査・研究に関わってきました。と同時にカワヒバリガイが何者であり、どんな生活をしているか、実態を広く市民に知っていただくことにも力を注いでまいりました。正しい知識をもち、共有することで不要な混乱を避ける必要があるからです。そんな中で、昨年の9月に入りカワヒバリガイの死骸が多く見られるようになりました。原因は掴めてはいませんが、関係者は一応にホッと一息つかれたことではないでしょうか。

今1つの話題として、「川を生かしたまちづくり」事業として、豊田市の「まちなかの自然」を調べました。まちの中の「水と緑」、その中の生物の棲息実態を3年かけ調査しまとめました。当然のことですが水と緑のある所には生物が生き、水と緑の多いところには生物も多いことが、データがはっきりと示してくれています。そこから分かったことを「まちなかの水と緑のネットワークづくり」の提言としてまとめ、市民をはじめ関係機関の人々に報告と説明をしてまいりました。豊田市は常に新陳代謝を繰り返し、新たなまちづくりが進められています。私たちは調査・研究を通してこれからのまちづくりに関われることを誇りと思っています。

とにもかくにも、今の川の異変は、川の本来的持つダイナミズムの欠如により生物相互の力のバランスが崩れたことが招いたものではないか、と疑うこともできます。今までに分かったことは、まだほんの一部ですが、分かったことをまず皆さんに明確に説明し、一緒に考え話し合い、時には警鐘を鳴らし、また行動のきっかけになれば幸いです。健全な矢作川を取り戻すために、所員一丸となり調査・研究に力を尽くしてまいりたいと思いますので、皆様には今まで以上のお力添えをお願いいたします。

平成19年3月吉日